

令和6年度 第2回草津市社会教育委員会議

松原G-GRIT学習と地域連携

草津市立松原中学校
校長 柴原 力

松原G-GRIT学習のはじまり

①学習指導要領「持続可能な社会の創り手」の育成【前文】

(前略)自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、**多様な様々な人々と協働**しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、**持続可能な社会の創り手**となること(後略)

②スクールESDくさつプロジェクトの開始

子どもたちが身の回りの事象を**地球規模で考え**、**他者と協働**して身近なことから行動することにより**自己肯定力**や**やり抜く力**、主体性・探究性・協働性・社会性を養うため、「総合的な学習の時間」を中心に、地域と学校に共通する課題解決のために、教科で学んだ知識を活用して、地域と協働して学習する。



松原G-GRIT学習スタート

学校の 課題

- 学校や生徒が地域との関係が希薄で、地域との協働して取り組めることが少ない。
- 行事には前向きではあるが、学習では主体性や粘り強さが足りない。



松原 G-GRIT 学習

- 産官学民が協働して、「Think globally, act locally」の視点で学習を進める。
- 生徒の主体性と問題解決力の育成を主眼として、世代間(内)の公正を意識した取組実践と探究のサイクルを回す取組を進める。

松原G-GRIT学習の確立

・3年間のカリキュラムを作成

「ESDを軸とした生徒の主体性と課題解決力の育成～地域との協働学習を通して新たな価値を創造する～」

1年生：
SDGsについて知る
2年生：
SDGsについて考え、ジブンゴトにする
3年生：
学んだことをカタチにする

松原未来学習

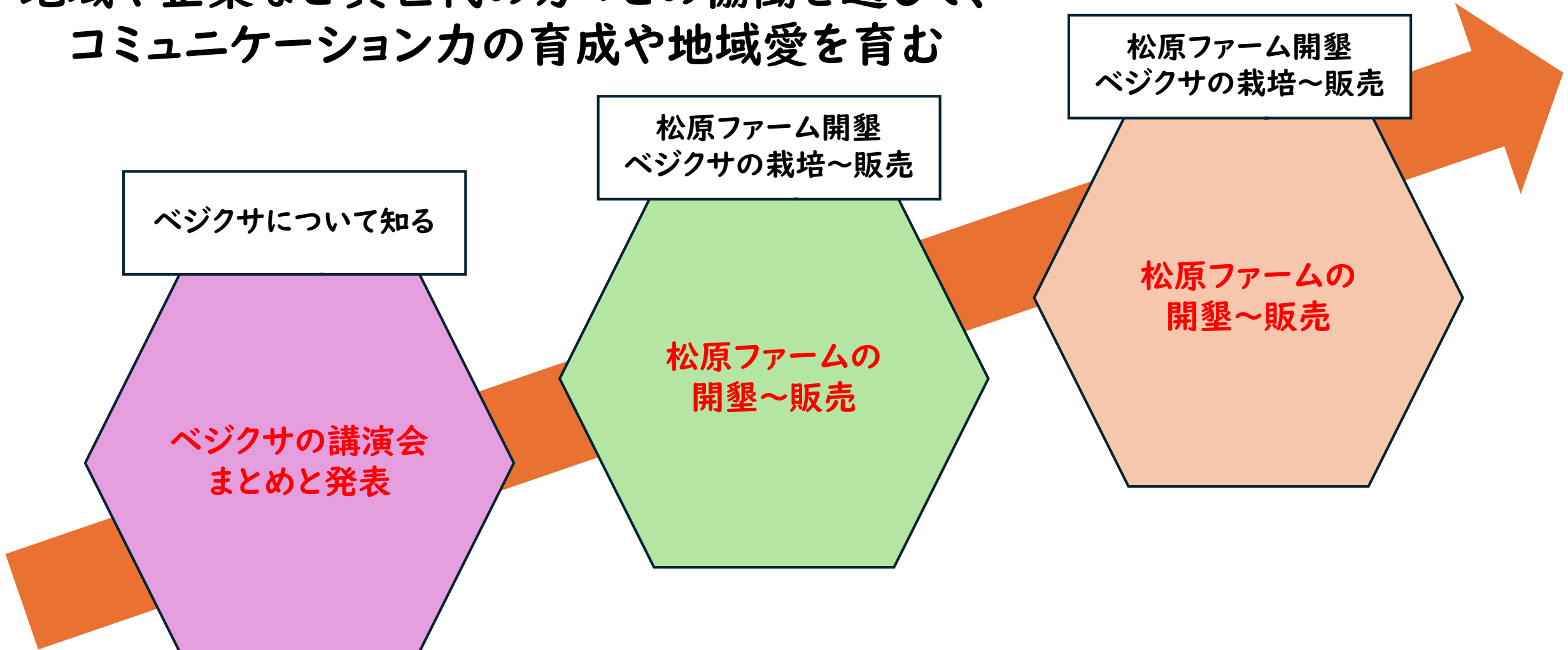
松原ローカル学習

草津市の特産物であるベジクサに焦点をあて、「栽培」「職業」「物流」「マーケティング」等について、地域の方々や農家の方々と共同で体験学習を行う。その中で課題発見や解決に向けて生徒が主体的に考え、仲間と協働できる力を育む。

年間を通して2本軸で学習を進める

松原ローカル学習：つながろう！草津の農産物 「ベジクサ」の魅力発信プロジェクト

地域や企業など異世代の方々との協働を通して、
コミュニケーション力の育成や地域愛を育む



持続可能な社会づくりのための課題解決に必要な

「7つの能力・態度」

- ① 批判的に考える力
- ② 未来像を予測して計画を立てる力
- ③ 多面的・総合的に考える力
- ④ コミュニケーションを行う力
- ⑤ 他者と協力する態度
- ⑥ つながりを尊重する態度
- ⑦ 進んで参加する態度

出典：国立教育政策研究所「学校における持続可能な発展のための教育(ESD)に関する研究〔最終報告書〕」

家庭科×G-GRIT学習(保育実習)

ねらい:「人と人のつながり」と「人と自然とのつながり」を大切にできる心の涵養を図る。

問)この学習を通して、あなたはどのような力が身に付きましたか。

- ・ 他者と協力する態度
- ・ つながりを尊重する態度
- ・ 進んで参加する態度

生徒の声

- ・ どんな年代の人ともつながりを大切にして、互いを尊重し、互いを思い合い、良い関係を築いていくことが大切だと感じた。
- ・ 積極的に行動するということが身につけることができたので、話し合いの場や意見を述べる場でこのような力を生かしていきたいです。
- ・ 今回の保育実習で、進んで自ら話すことが身に付きました。これを普段のグループ活動などでの発言に生かしていきたいです。

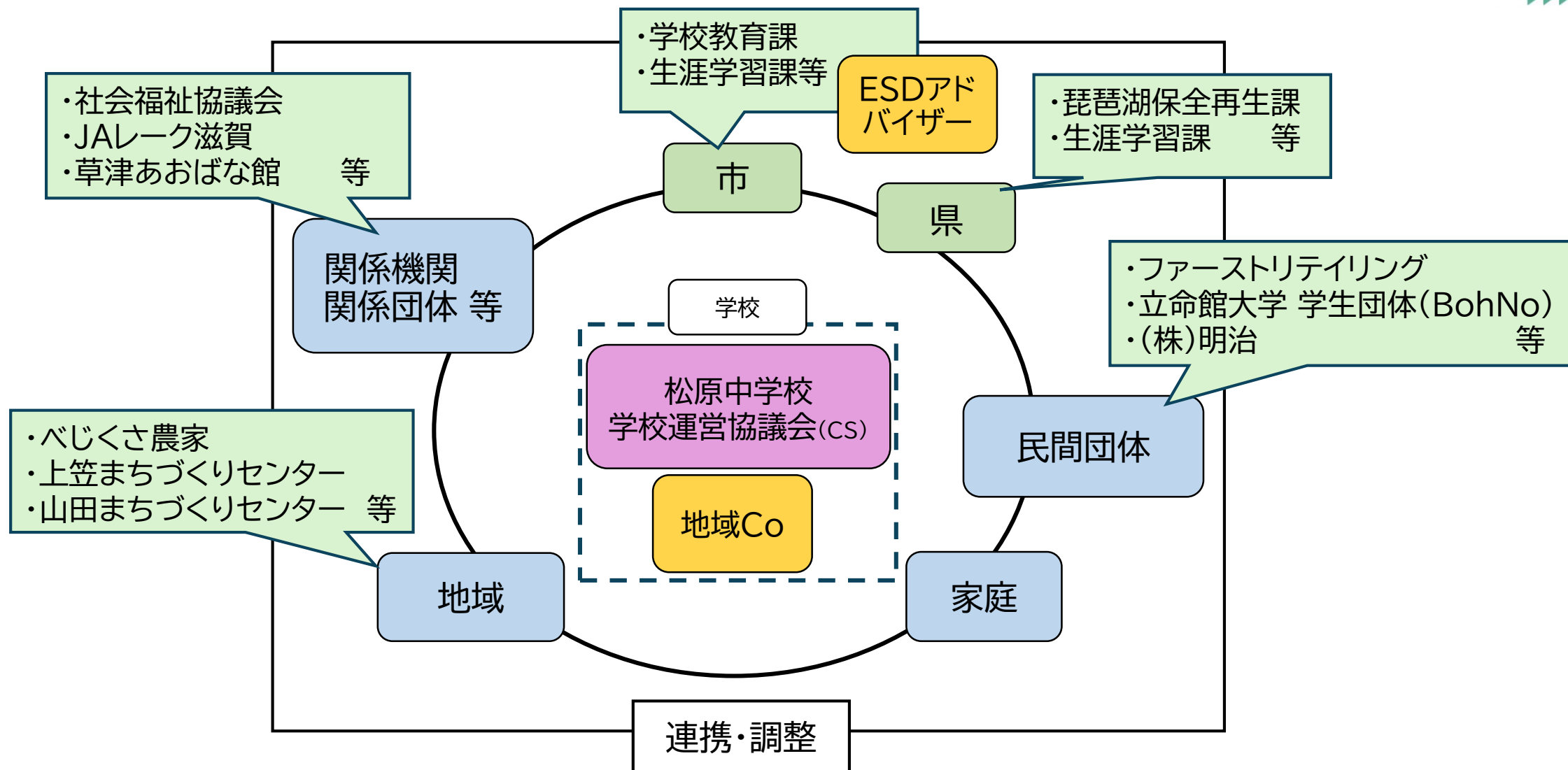
生徒の声

- 積極的に社会の問題について考えることができた。
- 地域の特色を生かして出来ることを、実際に体験するところ。
- 社会科や理科などの座学でも農業については触れるが、実際に作業を行うことなく知識だけを得ていくので大変さについては本当の意味では理解できていなかったと思った。
- 協力することの大切さを知ることができた。
- 自分から進んで行動すること。自主性は大切だと思うから。

教員の声

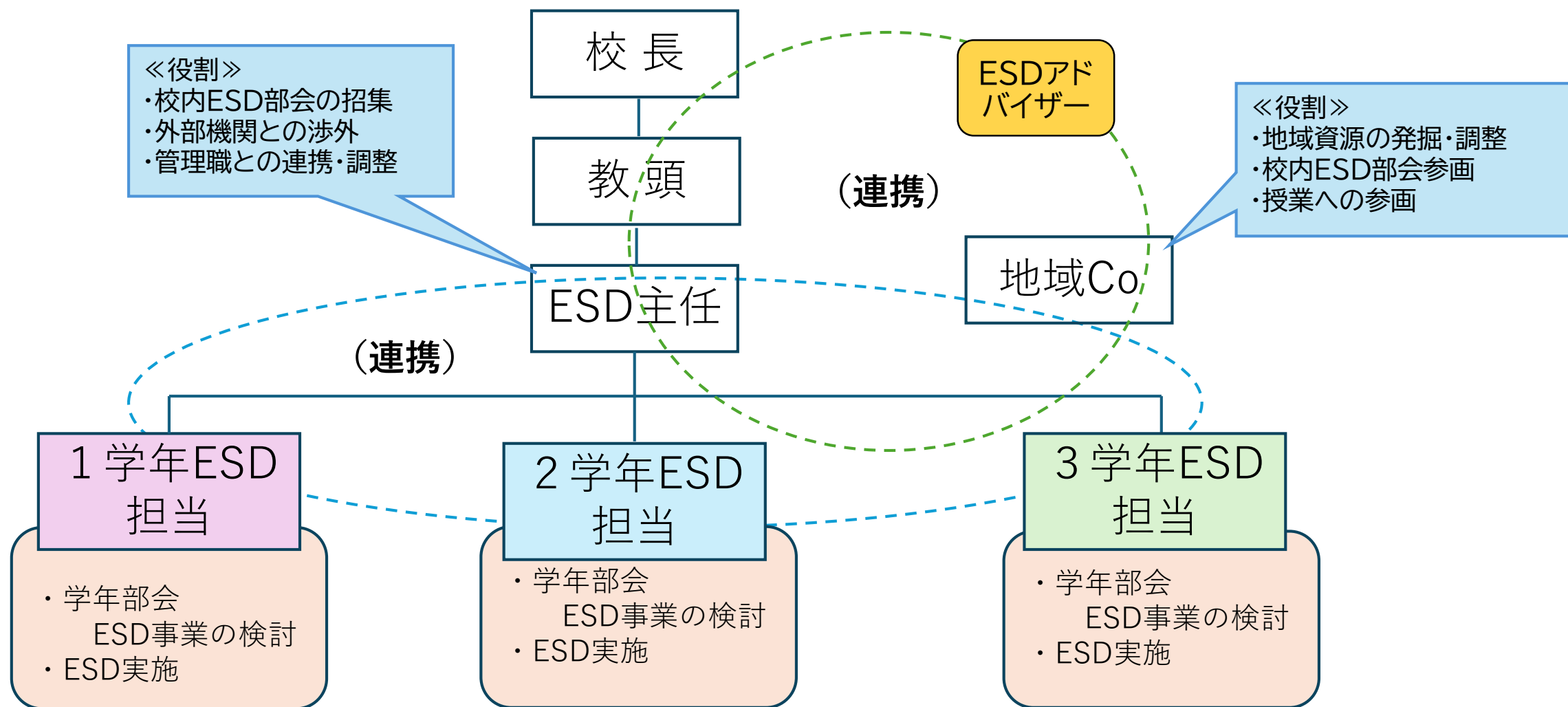
- 知識理解だけでなく、体験を交えた生きた学習になっており、生徒も意欲的に取り組めた。
- 服プロ、松原ファーム共、生徒主体で活動ができた。またその活動に主体的に地域の方々とともに活動する中で、活動に対し評価されることで生徒が喜びとやりがいを感じ、変容してきているのが見える。
- 地域と協働しながらいい流れができた。あとは生徒の主体性をどれだけ前面に出せるかが課題。
- 課題の設定や成果のまとめ方等のスキルは生徒にとって必要であり、学ぶことができた点多かった。一方で、地域との協働という視点では、調べた内容や取組が生徒自身の生活に還元された部分が少なかったように感じる。

松原G-GRIT学習の連携（体制）



松原中学校スクールE S Dの運営体制について

- 校内E S D部会の設置（E S D主任、各学年E S D担当、地域C o）



地域コーディネーターについて

●活動（昨年度）

- スクールESDくさつプロジェクトに係る校内研修会に参加
- 校内ESD部会「各学年の進捗状況や今後の進め方」についての協議に参加
- 「松原未来学習」ESD発表会に参加
- スクールESDの授業参観（3年生）
- 全校生徒による石拾い
- 種蒔きから栽培・収穫までの作業
- 学区協議会HP等での情報掲載



●コーディネーターとして大切にされていること

【地域コーディネーターAさん】

- ◇学校が必要としている情報（今・これから）を常に把握しておくこと。
- ◇地域に存在する人・もの・ことで、学習に活かされる情報を学校に提供していくこと。
- ◇日頃から学校のESDの取組みを地域の方々に広げ、地域の人材情報を増やしておくこと。
- ◇2小学校区（笠縫学区・山田学区）の両地域コーディネーター同士の情報交換を密にしておくこと。
- ◇できる限り、生徒たちと協働して取り組み、生徒と触れ合うことを通して、生徒たちの成長を感じようとする。

【地域コーディネーターBさん】

- ◇学校の活動に関わる情報の収集や発信を行うこと。
- ◇学校や地域住民のニーズや思いを把握して、調整とマッチングをすること。
- ◇持続可能な取組になるよう、学校と地域が互いに楽しみを持てる活動を実践すること。
- ◇活動を通して生徒たちの成長を見守り、応援すること。

